



秋田エコプラッシュ株式会社
CSR・環境報告 2013

<http://www.ecoplash.co.jp/index.html>

2013年8月発行

企業理念・環境方針

企業理念

「リサイクル」を通して地球も人も豊かに

一、廃棄物を有効利用し、資源循環型社会構築に寄与

一、秋田発のリサイクル製品を全国へ

一、リサイクル事業を通じた地域貢献

環境方針

1. 当社の事業活動における、ISO14001の要求を満たす環境マネジメントシステムを制定し、確実に実行・維持するために役割と責任を明確にし、循環型社会の構築につながるよう継続的な改善に努めます。
2. 容器包装プラスチックリサイクル業及び成形品製造にかかわる事業活動が、環境に与える影響に配慮し環境汚染の予防に努めます。
3. 環境マネジメントシステムの運用にあたっては、環境側面に関わる環境法令、条例及びその他の要求事項を順守します。
4. 事業活動に伴う環境側面のうち、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的目標の設定を行い、定期的に見直しを行います。
5. この環境方針は、文書化して当社の為に働く全ての人に教育・訓練を通じて周知徹底し、外部に対しても公表します。

改定：2009年10月7日

トップメッセージ

当社は、2004年度の経済産業省のエコタウン事業として認定を受け、2006年4月から財団法人容器包装リサイクル協会の登録を受けて、家庭から排出される容器包装プラスチックのリサイクルを推進してまいりました。また当社は、秋田県エコタウン事業としても認定されており、秋田県内の循環型社会構築の一翼を担うべく、環境政策の推進にも取り組んでおります。

リサイクルした容器包装プラスチックを主原料とした製品開発は、畦カバー、プランター、軽量U字溝、水耕栽培用架台など、販売事業者との共同開発を行って製品化してきております。最近では、独自成形技術により、雨水貯留槽の製品特許および、公益社団法人雨水貯留浸透技術協会の技術評価認定を取得いたしました。その結果、本製品の製造および販売が拡大しております。さらに今年度は、容器包装リサイクル材等のマテリアル原料製造事業が増加、拡大してきております。これまで以上に、自信と誇りを持って、品質向上や作業改善に取り組んでまいります。

今後とも当社は、地球環境への貢献はもちろんのこと、地域と共に歩んで行き、先進的な取り組みを積極的に行うことで、循環型社会構築と環境保全に寄与していきたいと考えております。

2013年 8月 1日

代表取締役社長 鈴木 茂

商号	秋田エコプラッシュ株式会社
所在地	秋田県能代市扇田字扇淵11番地1
創立年月日	2004年2月13日
資本金	2億5000万円
代表者	代表取締役社長 鈴木 茂
役員等	専務取締役 本田 大作 取締役 大森 三四郎 取締役 田宮 嘉一 取締役 大河内 保 取締役 山谷 文子 監査役 広幡 信悦 監査役 古谷 伸之
従業員数	49人
出資企業	三機工業株式会社 株式会社リサイクルワン 株式会社GCPリサイクルマネジメント 大森建設株式会社 中田建設株式会社 東北電力株式会社
許可	一般廃棄物処理施設設置許可 許可番号 指令山福環-1577 産業廃棄物処理施設設置許可 許可番号 指令山福環-1578 産業廃棄物処分業許可 許可番号 5231233

アドレス

アクセス	TEL:0185-58-5600 FAX:0185-58-5601 Mail: info@ecoplash.co.jp
------	---

沿革

2003年3月	秋田県北部エコタウン計画(「石炭灰のリサイクル事業の事業可能性」) 拡充調査
2004年2月13日	秋田エコプラッシュ株式会社設立
2004年4月	平成16年度 経済産業省 エコタウンハード事業補助金申請
2004年10月	平成16年度 経済産業省 エコタウンハード事業補助金承認
2004年10月	秋田県北部エコタウン計画承認
2005年3月	本社工場建設工事着工
2006年3月	本社工場稼働開始
2006年4月	容器包装リサイクル法に基づく再商品化事業者として稼働

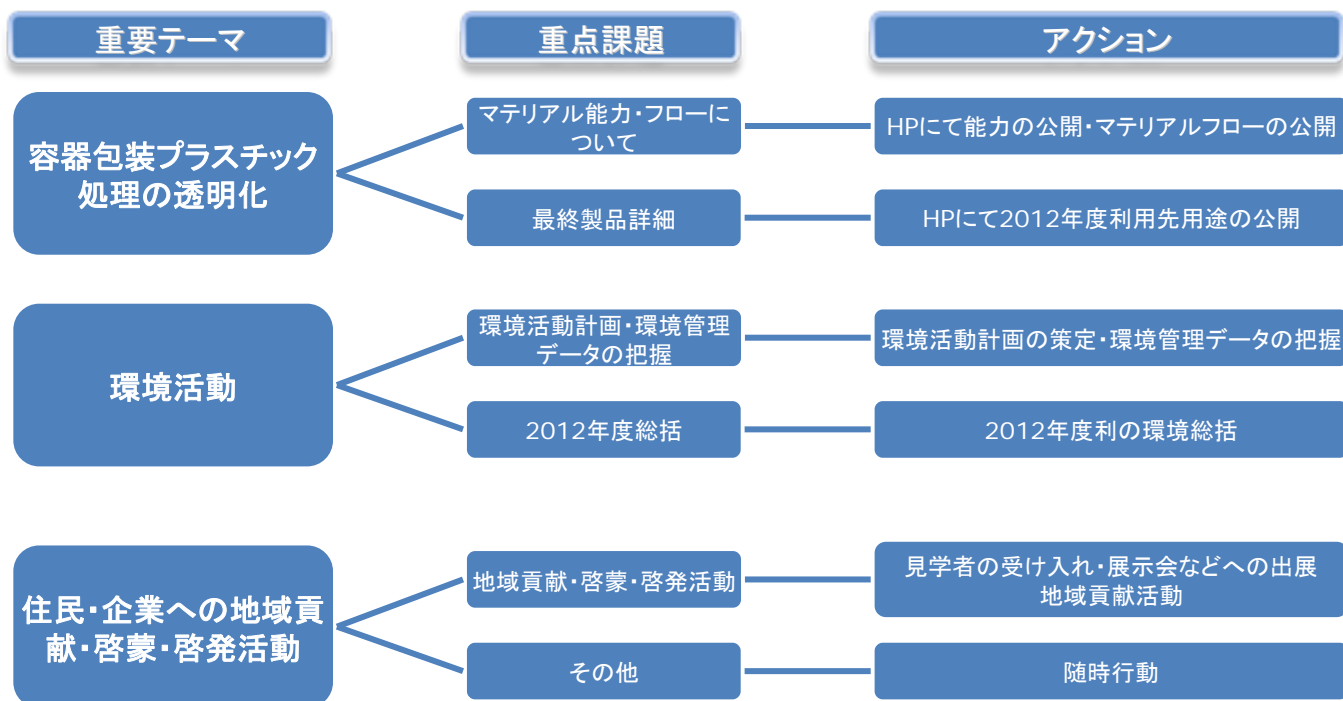
秋田エコプラッシュは地域の皆様、企業の皆様に信頼される企業に成長するために、環境活動・CSR活動を継続・改善し積極的に推進していきます。

CSR活動に向けて

秋田エコプラッシュは、環境方針に基づき、企業が果たす役割を明確化し、実行・維持していくことでお客様から信頼される企業に成長すると考えています。そのためには、従業員一人一人が成長し、考える力を持ち社員一丸となり、環境活動・CSR活動に取り組んでいきます。

CSR活動の継続に向けて

秋田エコプラッシュが全社員とともにCSR活動を進めるために、事業推進課を事務局とする「環境・CSR活動委員会」を年に2回開催することにしました。この会議では、啓蒙・啓発活動を考え、実行する計画を主に考えていきます。全社員が考え、行動することで目標に向けての活動をより推進していきます。

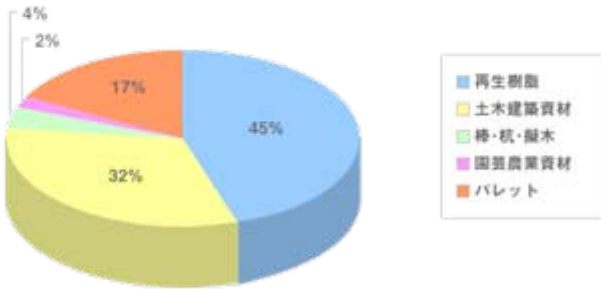


処理能力

施設の種類	破砕施設	設置年月日	2005年9月15日
処理する産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	処理能力	19.2t/日
稼働時間	24時間	処理方式	破砕選別圧縮
構造及び設備の概要	・破砕設備(主電動機75kW) ・PS減容設備(処理能力20kg/h)		

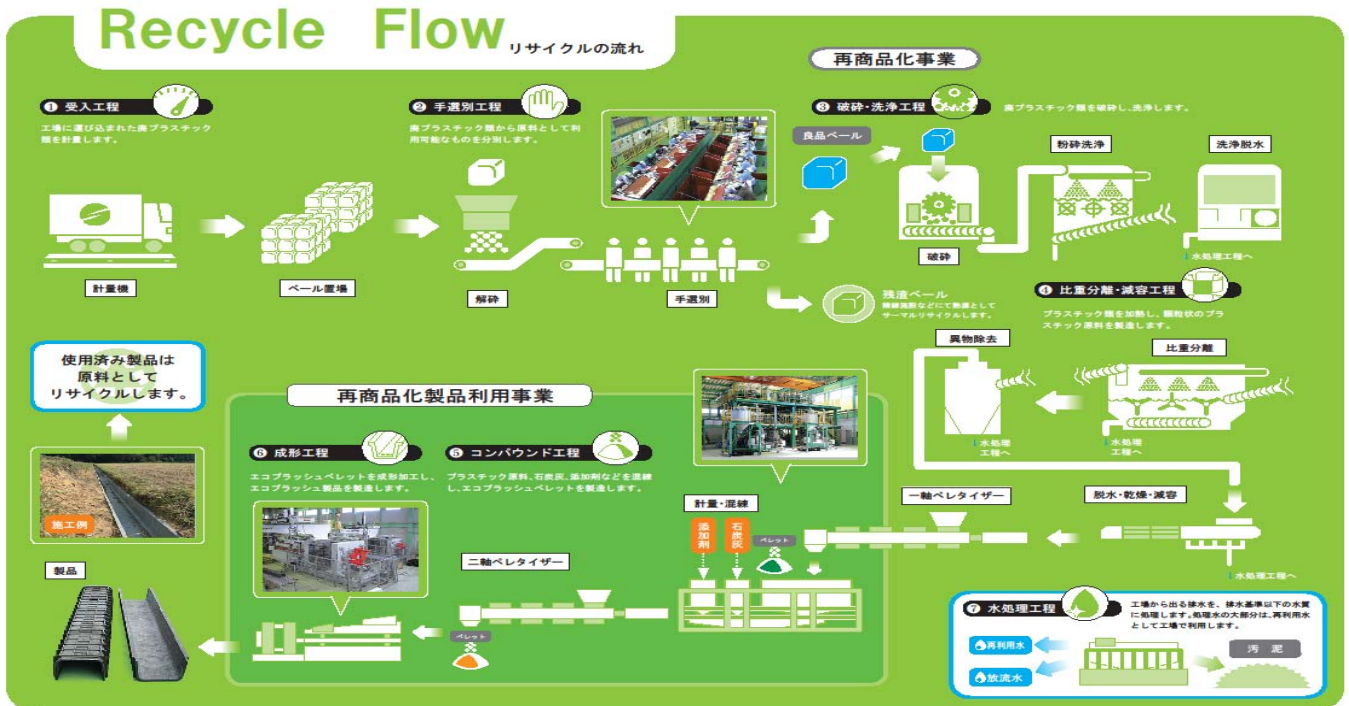
廃棄物の種類、直前1年分の受入量、処分量、再商品化量	廃棄物の種類	廃プラスチック類 ※容器包装リサイクル法に基づく、廃プラスチックに限る
	受入量	3,341t (2012年度実績)
	処分量	3,341t (2012年度実績)
	再商品化量	1,745t (2012年度実績)

平成24年度 再商品化製品利用比率



- 再生樹脂: コンパウンドペレット(パレット向け)
- 土木建築用資材: 雨水貯留槽
- 棒・杭・擬木: ウッドデッキ
- 園芸農業資材: 植木鉢等
- パレット: 樹脂パレット

処理フロー



環境活動計画と実績

秋田エコプラッシュでは下記の環境負荷物質の把握、削減を会社全体で取り組みます。
目標値は2011年度を基準として設定します。

方針	取り組み項目	活動内容
Co2排出量の削減	LPGガス使用量	フォークリフトのアイドリング抑制・LPG暖房の抑制
	電力使用量	事務所等の昼休みの消灯、現場にはデマンド計を設置し無駄な電力の把握に努める
排水量の削減	排水量	水処理設備で再利用水として工場へ循環させる
	補給水使用量	
廃棄物の削減	コピー用紙	リサイクル用紙の使用、裏紙への使用を徹底
社会貢献	工場見学の受け入れ	見学者を積極的に受け入れ、環境に対する普及啓発に努める

項目	単位	目標値	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
LPGガス使用量	kg	500	515	535	510	410	430	340	550	595	580	700	575	575	6315	526
電力使用量	kW	291,667	244,700	282,000	261,700	256,400	239,700	215,200	296,700	281,700	296,900	297,900	287,500	282,500	3,242,900	270,241
補給水使用量	m ³	700	510	552	602	845	802	725	790	548	821	1,235	740	596	8,766	730
排水量	m ³	1,100	365	429	466	706	712	603	647	548	575	709	407	348	6,515	542
コピー用紙	枚/月	5,000	4,500	5,000	5,000	4,500	4,500	5,000	5,000	4,500	5,000	5,000	4,500	4,000	56,500	4,708
騒音	dB	60	54.5	55.3	53.0	53.15	52.4	52.3	51.9	51.5	51.2	50.8	50.7	50.6	627.4	52.2

水質測定データ

項目	単位	測定値①	測定値②	測定値③	計量方法 規格=JIS K 0102
水素イオン濃度 pH	pH	8.0	7.6	7.6	規格 12.1
浮遊物質質量 SS	(mg/ℓ)	18	18	22	環境庁告示第59号
化学的酸素要求量 COD	(mg/ℓ)	75	37	21	規格 17
生物化学的酸素要求量 BOD	(mg/ℓ)	18	12	2.6	規格 21及び 32.3
N-ヘキサン抽出物質質量	(mg/ℓ)	5未満	5未満	5未満	環境庁告示第64号
備考	採取日	4月25日	7月11日	11月7日	
	採取時刻	14:20	9:30	9:30	
	水温(°C)	24.0	29.3	19.9	

①LPGガス使用について

2012年度は、自社の主力製品である雨水貯留槽の出荷が増え、フォークリフトを使用する頻度が大幅に増えました。これにより目標値を超えて使用する結果となりました。しかし、従業員内でのアイドリング抑制、LPG暖房の節約意識が高まり多少の時間でもエンジンや電源を切り節約に徹する姿が顕著に見受けられました。

②電力使用量について

毎年のようにデマンド監視装置にて、電力監視を実行しました。目標値を年間平均で超えることはありませんでした。この結果は従業員内での節電に対する意識が向上している結果だと思われます。この節電に対する意識をさらに高めるように引き続き、従業員に呼びかけていく方針です。

③補給水使用・排水について

補給水は年間平均で目標値を大幅に上回る結果となりました。原因としては7月～10月に掛けての稼働で容器包装に付着している食物残渣を洗い落とす作業を重点的に行った結果でした。さらに、冬場は活性汚泥の負荷を減らすため、また、各所の凍結防止策のため上水を普段より多く使用したことが増量の起因となりました。

排水については、水処理の稼働調整を行い、工場内にて効率的に循環でき、目標値を大幅に下回ることができました。

④コピー用紙の削減

コピー用紙の削減は前年度と同じ数値となりました。引き続き裏紙の使用などを行い、削減につなげます。

⑤工場見学の受け入れ

見学者を積極的に受け入れることができた。毎年恒例の小学生の社会科見学、県経由での見学者の受け入れが多く、通年通り多くの見学者が来てくれました。受入人数等はHPで公開し、見学の受け入れを推進しています。

見学会の様子



環境関連法規への違反

環境関連法規への違反はなかった。ISO14001を取得していることもあり従業員の法規への意識は高いと思います。また、廃棄物処理法などの講習会にも積極的に参加させており、意識の向上は常日頃から心がけさせています。

秋田エコプラッシュは工業団地内ということもあり、独自の規制もあるのでそちらも順守して今後も公害防止に努めていきます。

全体評価及び見直し

2012年度は会社全体で目標について話し合い、何度も社内で議論を繰り返しておこないました。しかし、全体目標を全て達成することはできませんでした。一方では社員の節電、節水などに対する意識は高く保たれており2013年度の目標を達成したいという意欲が顕著に見受けられました。

2012年度の反省を活かし、

- ・目標の再設定
- ・LPGガス使用量の削減(ハイブリットフォークリフトの使用率向上)

会社としてこれからも成長していくためには、リサイクル率の向上及び、新規製品開発による地域貢献や社員一人一人の成長が必要不可欠です。環境負荷の圧縮を今以上に進めて取り組んでまいります。